



## 2年サイエンスツアー（東京・筑波）3日目 日本科学未来館



最終日の7月25日（金）は、日本科学未来館での研修でした。日本科学未来館は、最先端の科学技術と人をつなぐ新しいコンセプトのサイエンス・ミュージアムです。ここでは、「地球環境とフロンティア」、「技術革新と未来」、「情報科学技術と社会」、「生命の科学と人間」という4分野のテーマを掲げて展示が行われています。各自が興味をもった展示施設でインタープリター（展示解説員）や科学ボランティアの人達と対話しながら、ワークシートを完成していきました。

参加生徒の感想より

「海底の世界のことなんかあまり考えたこともなかったので、初めて知ったことばかりでした。日光も届かず、普通に考えると毒になるものがあふれる世界にたくさんの生き物が生きているということに、生物の進化や適応性のすばらしさを感じられました。」

「難しいと思っていた情報の世界が少し分かるようになりました。楽しく学べて良かったです。ASIMOが実際に見れてうれしかったです。」  
「超伝導実験の内容はとても難しかったけれど、実験しながら分かりやすく説明してくれたので、“なるほど”と思いました。良かったです。」



## SSH報告

### 2年 サイエンスツアー 3日目 日本科学未来館

### 平成20年度 SSH生徒研究発表会 パシフィコ横浜



## 平成20年度 SSH生徒研究発表会に参加 分科会発表 「アスコルビン酸定量実験の研



究」

### ポスターセッション発表「魚はどのように季節を感じ取っているのか」



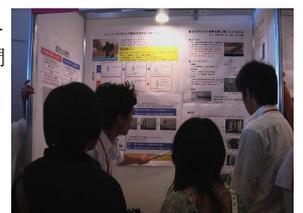
8月7日（木）・8日（金）の2日間、「SSH平成20年度生徒研究発表会」がパシフィコ横浜で行われました。本校からは環境科学科3年生8名が参加しました。発表会前日の6日（水）は、ポスターセッション会場で発表の準備を行いました。今年は、平成18年度指定校が分科会で発表を行いました。本校からは、並川敏大君・矢川知樹君・松栄一真君達が、「アスコルビン酸定量実験の研究」について発表しました。また、ポスターセッションでは、西條大輔君・西貴弘君・中山佑輔君達が「魚はどのように季節を感じ取っているのか」について、梶卓磨君・小山慶朗君達が「ヒューマノイドロボットの動歩行安定化に関する研究」について発表しました。

参加生徒の感想より

「今話題の有機ELについての研究や自分たちの研究に関連するものがあり、今回参加して、いろいろ興味深いことを知ることができた。」

「横浜の発表では、全国からSSH校が集まるだけあって驚きの連続だったが、一番驚いたのは質疑応答の時間だった。専門的な内容について積極的に堂々と質問したり、それに対する説明がなされており、すごいと思った。」

「ポスターセッションや他のSSH校の発表を聞いたり、とても有意義な時間を過ごすことができた。特に、ポスターセッションでは、他の学校の興味深いテーマの説明や研究してきた人達と交流することができ、良かったです。」  
「会場には、自分が思っている以上に科学に情熱をもった多くの学生が来ており、研究内容も幅広いことを再確認することができた。」



## 全国コンソーシアム

### ヒトミトコンドリアDNA多型分析 に参加し



8月20日（水）～22日（金）の3日間、SSH全国コンソーシアム ヒトミトコンドリアDNA多型分析が行われ、本校からは環境科学科2年生の玉置ひかるさんと西山侑花さんが参加しました。

ヒトミトコンドリアDNAは16500塩基対からなり、完全に母系のみで遺伝することが知られています。北方系縄文人の「N9b」、南方系縄文人の「M7a」、弥生人の「N9a」、「D」は弥生系の可能性が

高いなど、縄文人・弥生人の特徴的なタイプも明らかにされています。今回のコンソーシアムでは、参加校のサンプルのミトコンドリアハプロタイプを実際に実験を行い、調べました。

「今まで、ミトコンドリアDNAのことを何も知らなかったもので、母親からしか伝わらないと聞いて驚きました。自分のミトコンドリアDNAの抽出など実際に実験をさせてもらい、他のSSH校の取組も分かりました。」「ミトコンドリアが、細胞内の構造としてだけでなく、自分の中に根付いている存在であることを知りました。私という人間が古代から引き継がれていることに大なる驚異を感じました。」

